

〔榮花物語九石陸〕ち。宮のいみじうあわてさせ給ふほどのうつくしきにも略○下

〔紫式部日記〕いと宮いなき奉らんと殿のたまふをいとねたきことにし給ひて、あゝとさいなむ、

○按ズルニ、いと宮トハ最モ季ナル宮ヲ云フナルベシ、

〔榮花物語八初花〕中宮の若宮一後今宮朱後雀さしつゞきて、月日の如くにて光りいで給へるに略○下

〔大鏡五太政大臣兼家〕いまひとつの御はらのおほいぎみは、冷泉院の女御にて、三條院彈正宮親爲

王親帥宮親王の御母にて、三條院位につかせおはしまし、かば、贈皇后と申き、

〔源氏物語五若紫〕兵部卿の宮は、いとあてになまめい給へれど、にはひやかになどもあらぬを略○下

〔紫式部日記〕中務の宮親王平わたりの御事を御心に入れて、そなたの心よせある人とおぼして

かたらはせ給ふ、

○按ズルニ、彈正宮ハ彈正尹ニ任ゼラレ、帥宮ハ太宰帥ニ任ゼラレ、兵部卿の宮、中務の宮、マタ

各其官ニ任ゼラレタルナリ、

〔伊勢物語下〕昔心つきて色このみなる男、長岡といふ所に家つくりてをりけり、そこのとなりな

りける宮ばらに、こともなき女どもの略○下

○按ズルニ、宮ばらトハ、其母ノ皇族ナルヲ云フ、

〔源氏物語六末摘花〕左衛門のめのとゝて、大貳のあまのさしつぎにおぼいたるがむすめ、大輔の命

婦とて、うちにさぶらふ、わかむどほりの兵部の大輔なるがむすめなりけり、

〔落窪物語〕わかんとほりばらの君とて、母もなき御むすめおはす、

○按ズルニ、わかんとほりハ、河海抄ニ王家無等倫ノ字音ニテ王孫ヲ云フト云ヒ、閑田耕筆ニ

王家統天子の御系ト云ヒ、和訓栞ニ和漢通リノ義也ト云ヒ、黒川春村ノ北史國語考ニ稚子ミドホリ

御統ノ義ナルベシト云ヒ、古來諸説一様ナラズト雖、其皇族ヲ云ヒシコト明ナリ、わかんとほ